

変わらない“ため池愛”

東播磨のため池が研究の出発点。現在、ため池を中心とした地域づくりを進めている「いなみ野ため池ミュージアム」にキュレーターとして参加している。背中に“WE ♥ TAMEIKE”と書かれたスタッフジャンパーは「ミュージアムの事務局に『欲しいなあ』っておねだりしたらもらえました」とうれしそうに語る。



授業はダイヤ通りに進行

「文字盤が大きく見やすいから」と10年以上愛用している鉄道時計。授業中は教卓に置いて、時間配分をチェックしている。



暖房いらすの省エネ生活？

冬はインドで買ったカシミール製のショールが手放せないという。「肩をすっぽり包むようにして巻くと暖かいですよ」。夏はクルタ・パジャマを愛用するなど、インド留学で知り合った妻ともども、自宅ではインド文化に浸っているようだ。



先生に質問！



学会賞の盾

「インドの農村での水問題は、農業だけでなく、生活習慣や果てには政治問題にも深く関わっているため、農村全体を研究するようになりました」。24年前に広島大学のインド調査に参加して以来、インドの農村社会の研究を続け、平成19(2007)年には、神戸大学の澤宗則准教授との共著論文「グローバル化にともなうインド農村の変容」で人文地理学会学会賞を受賞。同賞はその年の学会誌に掲載された論文の中から最も優秀なものに贈られる賞だ。



貴重品は肌身離さず

いつもモンベルのウエストポーチを携行している。携帯電話や手帳、USBメモリ、デジタルカメラなどを入れており、手帳はページが蛇腹式になった「超」整理手帳を愛用している。

みなみの たけし

南埜猛 准教授

認識形成系教育コース
[社会系教育分野]

大阪府出身。昭和58(1983)年兵庫教育大学入学、卒業後、大学院修士課程に進む。広島大学大学院博士課程、ジャワハルラー・ネルー大学(インド)博士課程を経て、平成7(1995)年兵庫教育大学助手に。12(2000)年から現職。主にアジアの水利について研究している。今年度は「地域地理学研究法」「地誌学概説」「社会認識と地理情報」などを担当。



Q 主に研究されている分野は

A 日本やインド、中国における水利開発で、特にため池の研究に力を入れています。播磨地域にも古代から数多くのため池が造られ、地域の人々によって守り受け継がれてきました。しかし、近年は都市化が進み、ため池が埋め立てられたり、現在残っているため池も維持管理に難しいケースが目立ってきました。地域の将来やまちづくりを踏まえたため池の活用を考え、論文で発表しています。

Q 授業ではどのようなことを教えていますか。

A GIS(地理情報システム)を使った教材開発について教えています。GISとはパソコンを使って、地図と人口データや土地利用などの情報を統合させるものです。地図を通して社会現象を考えることで、児童生徒の空間認識力を高める効果があります。最近「MANDARA」などフリーのGISソフトが出回っているので、子どもたちの興味関心を引くオリジナルの地図を簡単に作る事ができます。

Q 先生は兵教大の2期生です。後輩たちにアドバイスは。

A 小学校教員は全教科を教えるわけですから、あらゆる方向にアンテナを張り巡らせ、いろいろなことに興味、関心を持つことが大事です。その中からライフワークにできるようなテーマを見つけてもらいたいですね。